

研究・調査報告書

報告書番号	担当
546	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Low-to-moderate alcohol consumption and smoking cessation rates: retrospective analysis of 4576 elderly ever-smokers. 低-中等度のアルコール摂取と禁煙の比率：4576人の高齢禁煙者の回顧的分析	
執筆者	
Breitling LP, Muller H, Raum E, Rothenbacher D, Brenner H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Depend. 2010 Apr 1;108(1-2):122-9.	
キーワード	
禁煙, 飲酒, 回顧的コホート研究	
要旨	
目的： 喫煙とアルコール摂取量は各種疾病罹患と死亡の2大危険因子であり、互いに強い相関がある。喫煙者の飲酒が禁煙をより困難にしているかどうかについては結論が出ていない。そこで本研究は、一般住民においてアルコール摂取と禁煙の可能性が時を同じくしておこるのかを明らかにすることを目的とした。	
方法： ドイツにおいて一般的な開業医で登録された50-74歳の一般住民を対象としたESTHER研究のベースライン調査時に禁煙者であった4576人を回顧的に分析した。生涯のアルコール消費は、20歳、30歳、40歳、50歳と登録時の飲酒量を問う項目を含む質問票から得た。アルコール摂取量の自然な経時変化を含む分析を拡張Cox比例ハザードモデルでおこない、喫煙開始から禁煙までの時間をモデルに利用した。	
結果： 生涯非飲酒者を対照として、潜在的な交絡因子を調整した禁煙の相対危険度(95% CI)は、1週間あたりのアルコール摂取量1-39gで1.17 (1.02-1.34)、40-99gで1.36(1.20-1.55)、100-199gで(1.27-1.66)、200g以上で1.32 (1.13-1.53)だった。このパターンは詳細な感度分析をおこなっても変わらなかった。	
結論： アルコール摂取と喫煙の同時発生についての分析結果は、一般住民における一般的な低または中程度のアルコール摂取が非臨床の現場において、禁煙を実際に促進したかもしれないことが示唆された。	